

私の故郷、四川

中国語講座講師 熊 薇

「四川」と言えば、皆様は何を思い出すのだろうか。「パンダ」なのか、それとも「マーポー豆腐」なのか。旅行が好きな方は「九寨溝」に対して、歴史に興味を持っている方は「劉備」、「蜀の国」を思い出すことが多いだろう。中国人は「四川」を聞いたら、何の答えが出るのだろうか。ほとんど同じ答えになるが、ほかに「美人が多い」ところだというイメージも強いかもしれない。その通り、四川省には美人がたくさん住んでいる。



青城山

(2012年)で、56民族がある。そして、気候・地形も多様である。まず気候について、西の高原地域は亜熱帯から亜寒帯までの気候帶にあり、冬は長くて寒い。夏はほとんどなく、日照が多い。一方、東の山地は亜熱帯温潤気候に属していて、四季が鮮明である。春は乾燥、夏は暑い、秋は雨が多い、冬は暖かい。雲・霧が多く、日照が少ないのも特徴である。四川省の東部は「四川盆地」(中国四大盆地の1つ)が広がり、内陸にあるにもかかわらず温暖で肥沃な米作地であることから「天府之国」と称される。西部は「川西高原」で、長江(揚子江)の源でもある。では、四川の名称の由来は? 実は、いろいろな説がある。その中に、以下の2つの説がよく知られている。北宋当時、「益州路」、「梓州路」、「利州路」、「夔州路」いう4つの道がある。あわせて「川峡四路」と呼ばれ、その略称は「四川路」である。その後、人々に「四川」と呼ばれるようになった。もう1つの説では、四川盆地に4つの川(岷江、沱江、嘉陵江、乌江)が流れていることが四川の名の由来正在被讲述。



成都市武侯祠

四川省の歴史はとても長い。7千~8千年前の新石器時代すでに「古蜀文明」が始まっていた。その遺跡として、「广汉三星堆遺址」がある。この遺跡は、四川省の省都である成都は三国志の舞台として有名。三国時代には刘备玄徳が成都に「蜀」の国を興し、諸葛孔明とともに活躍した。唐代に詩聖として名高い杜甫が住んで詩を作った「杜甫草堂」も公開されている。また、广安市は邓小平の出身地であり、2004年には邓小平誕生100周年記念行事が開催された。

一方、四川の観光資源もすばらしく、「天下山水在于蜀(天下の景色はすべて蜀にある)」、「九寨天下奇、峨眉天下秀、青城天下幽」などは古くから人々に言われている。四川省には4つの世界遺産(九寨溝、黄龍、青城山・都江堰、乐山大佛・峨眉山)のほか、三星堆遺跡やパンダ自然保護区・研究施設、恐竜博物館をはじめ多くの観光資源があり

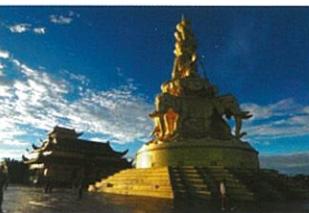
観光地としての人気が高い。特に、「四川省はパンダの故郷」と言わされ、中国のパンダの80%がここで棲息している。研究施設(「卧龍自然保护区」、「成都大熊猫繁育基地」など)が一般公開されている。



四川火鍋

また、四川料理は「天下一品」と言っても過言ではない。唐辛子と花椒の効いた四川料理は世界的でも有名である。麻婆豆腐や担担麺、火鍋、回鍋肉など。

四川省の成都市へは、関西空港から5時間かかるが、一回行けばそこの風景・人情に魅了されてしまう。成都市は「一座来了就不想走的城市(來たら離れなくなる町)」だと言われている。皆様も一度行ってみたらどうだろう。(中国文化同好会月例会講演録抜粋)



峨眉山



成都市天府廣場

「中国古代史」同好会へのお誘い

代表 渡利 慶昭

- ◆不レンバ入二^ヲ虎穴^ニ、不レ得^ヲ虎子^ヲ。→虎穴に入らずんば、虎子を得ず。
- ◆風蕭蕭兮易水寒 壮士一去兮不復還
風蕭々(しようしよう)として易水寒し。壮士ひとたび去って復(ま)た還(かえ)らず

風しようしょうとして・・・の意味は、戦国時代末、燕の太子丹に懇望され、秦王政(のちの始皇帝)の暗殺を引き受けた荊軻(ケイカ)が易水の岸辺でうたった別れの歌。「風は蕭蕭として易水寒く、壮士一たび去って復た還らず」とつづく。このとき、白い喪服をつけて見送った人々はケイカの悲壯な歌声に胸うたれ、目を怒らせ髪を逆立てた。結局、荊軻は秦王政を追いつめたものの、間一髪で逃げられ斬り殺された。これぞ悲劇の刺客の絶唱である。(「史記」刺客列伝)十八史略や史記を学びます。

その他、「四面楚歌」「捲土重来」等の四文字熟語も多々出でます。皆さん、例えば、上記のような漢文を、楽しく学びませんか?

漢文は、全文字を漢字で書かれたものを、日本人が読みやすいように「レ」を入れて読めるようにしてあります。ご存知の、杜甫や李白等々の、聞いたことがある、漢文・漢詩・四文字熟語を、勉強しています。

授業は、瀬田先生が読まれるのを聞いているだけで、発表はありませんからご安心ください。聞いてるだけで、中国の古代歴史が、沸々と目に浮かんできます。



<このようなメンバーです>

30周年写真展を終えて

企画運営副委員長・中国語講座運営委員長 北川 敏一



移情閣友の会は1984年12月に発足しています。発足1年後の移情閣開館記念フェスティバルでは、陳舜臣さんやアグネスチャンさんが出演されました。現在友の会の副会長をされている河合さんやそのほかの友の会の方々が活躍されていた時のように、1986年の報道記事で紹介されていました。

また、各同好会の昔と最近の写真があり、発足当初から活動を続けていた同好会もありました。移情閣まつりのようすも年代によって変遷しています。

舞子公園秋の芸術祭2014

10月4日(土) 15:00-15:45
海上プロムナードウッドデッキ前

二胡同好会 满藤 典子



移情閣二胡同好会

今年は舞子公園管理事務所からコラボしませんかとのお誘いを受け、10月4日(土)に開催された舞子公園秋の芸術祭のトワイライトコンサートに移情閣コーラス同好会と初めて出演しました。

二胡同好会からは11名が参加し、「喜洋洋」など4曲を演奏しました。明石海峡大橋の下で、爽やかなメロディーが心に響きました。

副会長・移情閣コーラス同好会代表 河合 純子



移情閣コーラス同好会

会場が大橋の真下の通路であり、キーボードへの電気経路のトラブルもあり大変でしたが、中国語の歌はポピュラーな「茉莉花」や「草原情歌」を選び、最後に「日本の四季」を聴衆の皆さんと一緒に歌い、楽しいひと時を持ちました。このように多くの方に移情閣友の会の活動を知ってもらえる機会を頂けることに感謝します。

神戸孫文ゆかりの地ミニツアー

企画運営委員・編集委員 藤原 紀子



神戸中華会館旧址



諫訪山公園孫文潜居の地銘板

10月5日(日)台風接近の中でも、60人の参加者がおり、ツアーアイテムは10時~12時まで下記の4つの孫文ゆかりの地コースを2時間で老若男女が完歩しました。

- ①「孫文先生来訪の地」神戸中華会館旧址
- ②「孫文先生諫訪山潜居の地」諫訪山公園常磐花壇別荘跡(金星台)
- ③「孫中山先生『大アジア主義』講演会の地」(神戸高等女学校跡地) 現兵庫県庁一号館
- ④「孫文先生の像」大倉山

5月18日の第1回公開文化講座で受けた~天、地、人~を実際に現地を歩く事はより良き体験でした。又、企画運営委員会でも孫文記念館蔵海波研究員による事前研修を実施しました。当日、安井三吉前館長、愛新翼館長、林同福会長、蔵海波研究員、村田省一研究員らの解説は、このツアーアイテムとして実り多いものとされました。

小学校~大学まで就職も結婚も神戸の地で過ごした私でしたが、孫文については、中学時代に辛亥革命、三民主義しか知らず、孫文が18回も神戸を訪れ、この地をターニングポイントとした事を知り、感無量でした。

後の「大アジア主義」(西洋の手先となるか、アジアの守り手となるか...)の思想は、90年経つ現在でも新鮮でした。~私達は今、深く考えてみなければならぬ~と実感したツアーアイテムでした。



『大アジア主義』講演会の地 大倉山公園孫文銅像前

企画運営委員会勉強会の様子

企画運営委員長 後藤 みなみ



井上委員による研修

蔵海波研究員による講義

毎月第2土曜日の定例会のあとに勉強会を行ってきました。企画運営に役に立つスキルの研修や孫文について孫文記念館研究員による講義をしていただきました。アイデアを出しあって参加して楽しい、交流のある友の会の運営をめざしています。ぜひ、一緒に活動してみませんか。